

土佐打刃物製造業の後継者育成に向けた
(仮称)「鍛冶屋の学校」創設プラン

平成29年5月1日

はじめに

鍛冶屋は、カッコいい仕事である。

真っ赤な鉄の塊を、ハンマーで打って、刃物の形を作り上げていく。
特に、土佐の鍛冶屋は、自由鍛造の職人であり、刃物を作品として表現する芸術家である。

刃物の良し悪しは、見た目では分らない。
切れ味を確かめて、長い年月使ってみて、その価値が分かるものである。
ゆえに、刃物の良し悪しは、産地のブランド化がカギを握ってきたのではないと思う。

土佐打刃物は、高知県産品のあらゆる良いものと同じように、半製品（主に包丁）を県外の産地に売ってきた。土佐打刃物が、ブランド化されていないことは残念である。

私自身も、刃物の町で生まれ育っているが、土佐打刃物が、山林用刃物では日本一であるということを知らなかった。

一例を示す。

伊勢神宮は20年に1回、式年遷宮といって、社殿を新しく建て替える。その式年遷宮の重要な儀式の中で、御杣始祭（みそまはじめさい）というものがある。

この祭典は、社殿に使う木を切り出す行事で、その一番大事な道具である斧が、まさに香美市で作られているのである。

現在、香美市に斧鍛冶は3軒しか残っていない。また、林業の衰退と林業機械の発達によって、香美市の鍛冶屋が作っている山林用刃物の需要は厳しい状況が続いている。

何とかしなければということで調査をスタートしたが、海外マーケットを考えて議論を深めていくうちに、この刃物産業は、実は成長産業ではないかと思うようになってきた。

詳しくは、この調査書を読み進めて頂ければと思うが、土佐打刃物の伝統技術を、次世代に残せる可能性を強く感じている。

今回の調査は、問題提起にとどまらず、「鍛冶屋の学校」という政策立案としてまとめた。学校建設の概算設計、運営に関する資金計画。また講師の選定と、入学を希望する生徒の見込みも調査した。

「鍛冶屋の学校」今ならできるが、5年後、10年後では恐らくできない。教える職人がいなくなるからだ。土佐打刃物の伝統を継承していけるかどうかは、この「鍛冶屋の学校」にかかっている。

香美市・高知県をはじめとした行政。そして香美市民の皆様にご理解頂き、この香美市に鍛冶屋の学校を設立したいと思う。

残された時間は、もうそんなにはない。

平成29年5月1日

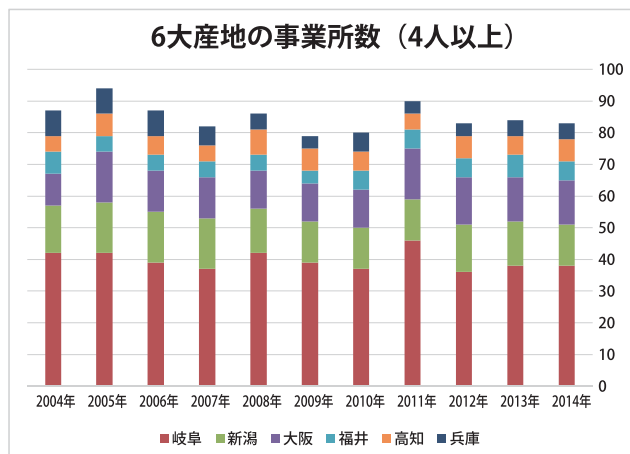
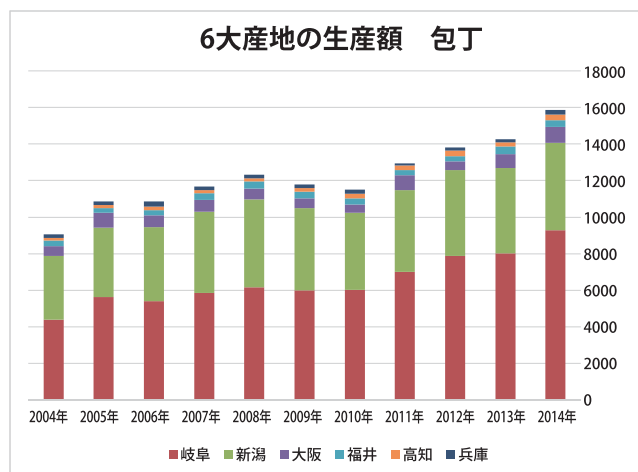
高知県議会議員 依光晃一郎

目 次

1. 刃物産地の動向と土佐打刃物市場の現状	1
2. 世界市場における和包丁の価値	3
3. 土佐打刃物の役割と位置付け	4
4. 土佐打刃物産地の特性と現状	5
5. 世界市場で実力に見合う生産能力、技術継承を行うための （仮称）「鍛冶屋の学校」 創設に向けて	6
5-1 世界包丁市場での土佐打刃物の潜在成長力	6
5-2 後継者育成全体フロー	8
5-3 情報発信拠点 （今後の国内外を対象とした土佐打刃物ブランドの開発試行等）	9
5-4 2年制教育研修カリキュラム案	10
6. 参考資料	
研修希望者及び講師予定者研修実績	
「鍛冶屋の学校」運営収支	



1 刃物産地の動向と土佐打刃物市場の現状



全国

前年対比では、2014年(111.0%)、2013年(103.3%)、10年前の2005年対比では(141.0%)と大きく拡大する傾向にある。

高知

前年対比では、2014年(147.5%)、2013年(72.1%)、10年前の2005年対比では(189.3%)と拡大傾向にある。

6大産地の生産額 包丁

工業統計表「品目編」データ

(単位:百万円)

	全国	岐阜	新潟	大阪	福井	高知	兵庫
2014年	16,122	9,270	4,793	870	369	320	250
2013年	14,523	8,029	4,652	775	417	217	182
2012年	14,065	7,883	4,685	476	304	301	168
2011年	13,287	7,017	4,467	816	289	229	133
2010年	11,822	6,028	4,209	440	340	258	220
2009年	12,142	5,988	4,511	535	369	186	196
2008年	13,630	6,174	4,798	577	395	187	194
2007年	12,079	5,860	4,448	625	380	160	202
2006年	11,441	5,405	4,047	657	283	181	289
2005年	11,431	5,616	3,822	793	265	169	202
2004年	9,978	4,393	3,489	538	298	152	200

全国

10年前の2005年対比では(80.80%)と減少傾向にある。ただし、事業特性から従業員3人以下の事業所が多く、実際には相当の事業所、従事者が減少している。

高知

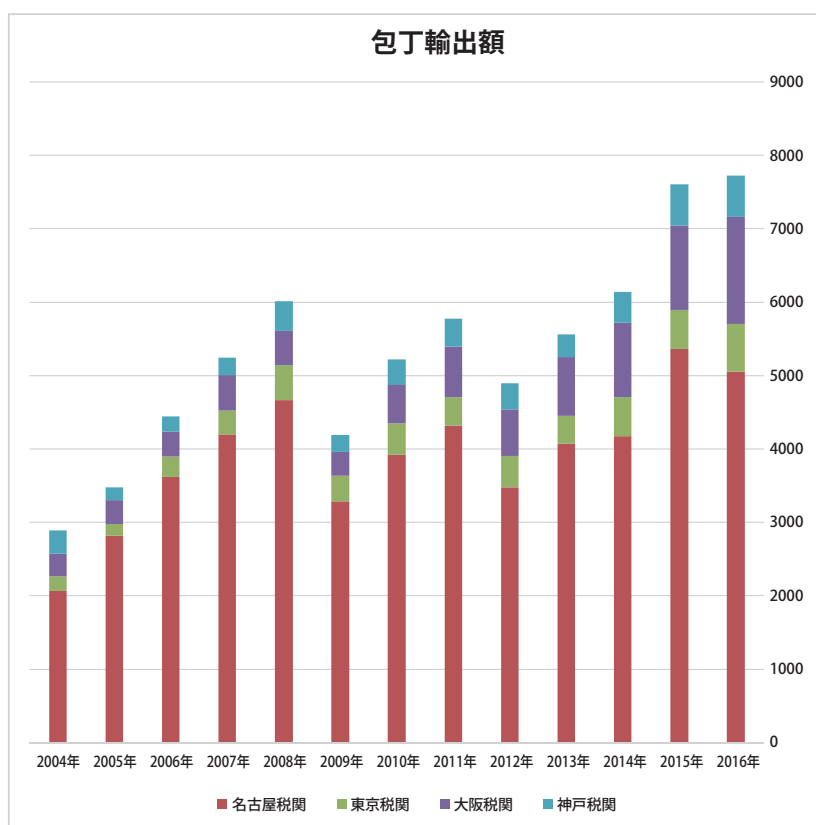
10年前の2005年対比では(100%)であるが、高知の事業者の大半は従業員3人以下であり、実際には相当の事業所、従事者が減少している。高知県土佐刃物連合協同組合では、組合員数(2005年 56 → 2014年 51)、従事者数(2005年 183人 → 2014年 168人)と大きく減少している。

※P.23 アンケート結果参照

6大産地の事業所数(4人以上)

工業統計表「品目編」データ

	全国	岐阜	新潟	大阪	福井	高知	兵庫
2014年	97	38	13	14	6	7	5
2013年	99	38	14	14	7	6	5
2012年	100	36	15	15	6	7	4
2011年	108	46	13	16	6	5	4
2010年	99	37	13	12	6	6	6
2009年	102	39	13	12	4	7	4
2008年	113	42	14	12	5	8	5
2007年	104	37	16	13	5	5	6
2006年	113	39	16	13	5	6	8
2005年	120	42	16	16	5	7	8
2004年	115	42	15	10	7	5	8



全国

前年対比では、2016年(101.6%)、2014年(110.3%)、2013年(112.8%)、2014年での2005年対比では175.8%と拡大傾向にある。(2004年からの平均伸び率は8.05%)

高知

神戸税関(四国、兵庫県も含む)での前年対比では、2016年(99.36%)、2014年(132.4%)、2013年(87.9%)、2014年での2005年対比では240.1%と拡大傾向にある。

財務省貿易統計 包丁輸出額

(単位:百万円)

	全国	岐阜	新潟	大阪	福井	高知	兵庫
	全国	名古屋税関	東京税関	大阪税関	神戸税関		
2016年	7,769	5,054	648	1,461	561		
2015年	7,649	5,364	532	1,147	565		
2014年	6,170	4,172	534	1,018	413		
2013年	5,595	4,071	378	802	312		
2012年	4,930	3,478	425	640	355		
2011年	5,823	4,321	385	690	381		
2010年	5,248	3,922	429	525	342		
2009年	4,207	3,290	349	321	229		
2008年	6,038	4,665	475	469	408		
2007年	5,258	4,195	329	479	241		
2006年	4,461	3,622	275	341	210		
2005年	3,508	2,820	162	324	172		
2004年	2,835	2,065	201	312	312		

包丁の生産額が拡大している大きな要因は、海外向け高級包丁の拡大である。これは、世界的な和食ブームを背景に、伝統技術を駆使した包丁の需要が海外市場で急速に高まっていることが大きく影響している。一方で、日本国内では、飲食業界で働く人の数自体は増加しているものの、プロ用の包丁の需要は年々減少傾向にある。

これは個人経営の飲食店の減少に加え、回転すしのように包丁を使わない調理作業を主とする大型店舗の増加が原因となっていると考えられる。なお、日本料理の料理人が愛用する和包丁の産地は大阪、堺市である。堺市の刃物の全国シェアは約7%と小さいが、プロ用の和包丁に関しては90%以上のシェアと言われている。

国内複数の刃物産地全体に渡って海外需要の続伸により、国内市場への供給も不足し、廉価な輸入品では代替のきかない日本製の上級品の納期は半年～1年待ちという深刻な状況に陥っている。納期遅延に対してバイヤーは焦燥感をつのらせ、いきおい、上級品の量産が可能な事業者に対しては、国内外問わず、新規の取引希望、引き合いの増加が顕著である。

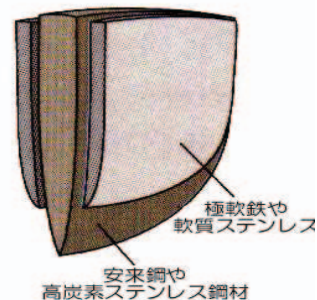


2 世界市場における和包丁の価値

これまで数百年にわたって、世界の包丁スタンダードは単一の鋼材で作られたブレードを持つものであり、それらが需要の大半を占めていた。そしてつい20年前までは最高級のはドイツに代表される単一の鋼材を鍛造した堅牢な作りの洋包丁とされていた。しかし現在のネット社会は、長い歴史の中で確立された著名ブランドの牙城を崩しキッチンナイフの世界で大きな変動を起こした。これまであくまでマイナーな存在であった日本独特の3層(両刃対応)あるいは2層構造(片刃対応)のブレードを持つ利点(※注)が広く認知されることとなったのである。

※3層、2層構造であり表層が軟らかいことで、砥石での研ぎやすさが担保され、薄く研ぎ上げることと、心材の硬さと耐摩耗性にて、その感応的なまでの鋭い切れ味が長期間持続するというダブルの利点。これは本来日本刀鍛冶由来の刃物文化である。表層が硬く、芯が軟らかいことで折れずフレキシブルな特性を持たせている。現代の日本包丁・鎌・ナタ・斧は、日用品としての実用性を求め、軟らかい表層はショックアブソーバーとしての役目を果たし、芯の硬い鋼材を包むことで「叩き切り」したときの衝撃から硬い鋼を守っている。この実に理にかなった構造が世界にはなかったのである。

日本の3層構造(両刃)



日本が主流になってきた端的な証左として、昭和に生まれた三徳包丁(魚、肉、野菜すべてに対応する最大公約数的、且つ入門編的な万能包丁の形)は、「Global」、「旬」の世界的大ブレイクを経て、今や「三徳」は「SANTOKU」であり、世界の万能包丁のスタンダード形状として必須のものとして認識され、世界中のメーカーが「SANTOKU」と表記。そして、ドイツというより世界一を自負していたに違いないZWILLINGS・ヘンケル社でさえ、数年前に関市の工場を買収し、同社の最高級シリーズ「雅・みやび(写真右上)」は現在様々なモデル展開を年々加えながらすべて日本で作られているのが実態である。

ヘンケル社の日本製造の雅シリーズ例



20数年前当時は到底考えられなかった展開であるが、「Global」に始まり、「旬」で開花した日本の包丁生産は、活況を呈し、北から新潟燕三条、岐阜県関市、福井県越前市、大阪府堺、高知、播州三木・小野市の各刃物産地において、鍛冶工房、大小メーカーが、入り乱れての製品開発に鎬を削っている。参考画像:和洋折衷デザインでスタートした「旬」のK社も純和風な「和寂」シリーズを市場投入(写真右下)、新潟F社は会津若松の伝統工芸漆塗りとのコラボ作も発表するに至っている。

K社「和寂」シリーズ



日本国内の刃物メーカーは独立した存在で各々独自にモノづくりを進めているかに見える。しかしながら、現実には同産地内での下請け加工に加え、さらには各産地事情(工程の得手不得手の差)から、産地間での相互補完関係も密である。新潟・関、新潟・越前、越前・関、土佐・越前、土佐・新潟、堺・土佐、堺・関、播州・関、関・土佐…等々、製造する品種、デザイン、必要とする工程、ハンドル部の素材選択によって様々に産地間同士、水面下でのコラボがなされ、三産地間を半製品状態で行き来させないと完成できない製品も多々存在する(例:土佐の鍛造ブレード生地を利用し、堺で研磨仕上し、ハンドルは関で加工し完成させる)このことは、日本製包丁の他国においそれとは模倣されがたい総合力となっている。



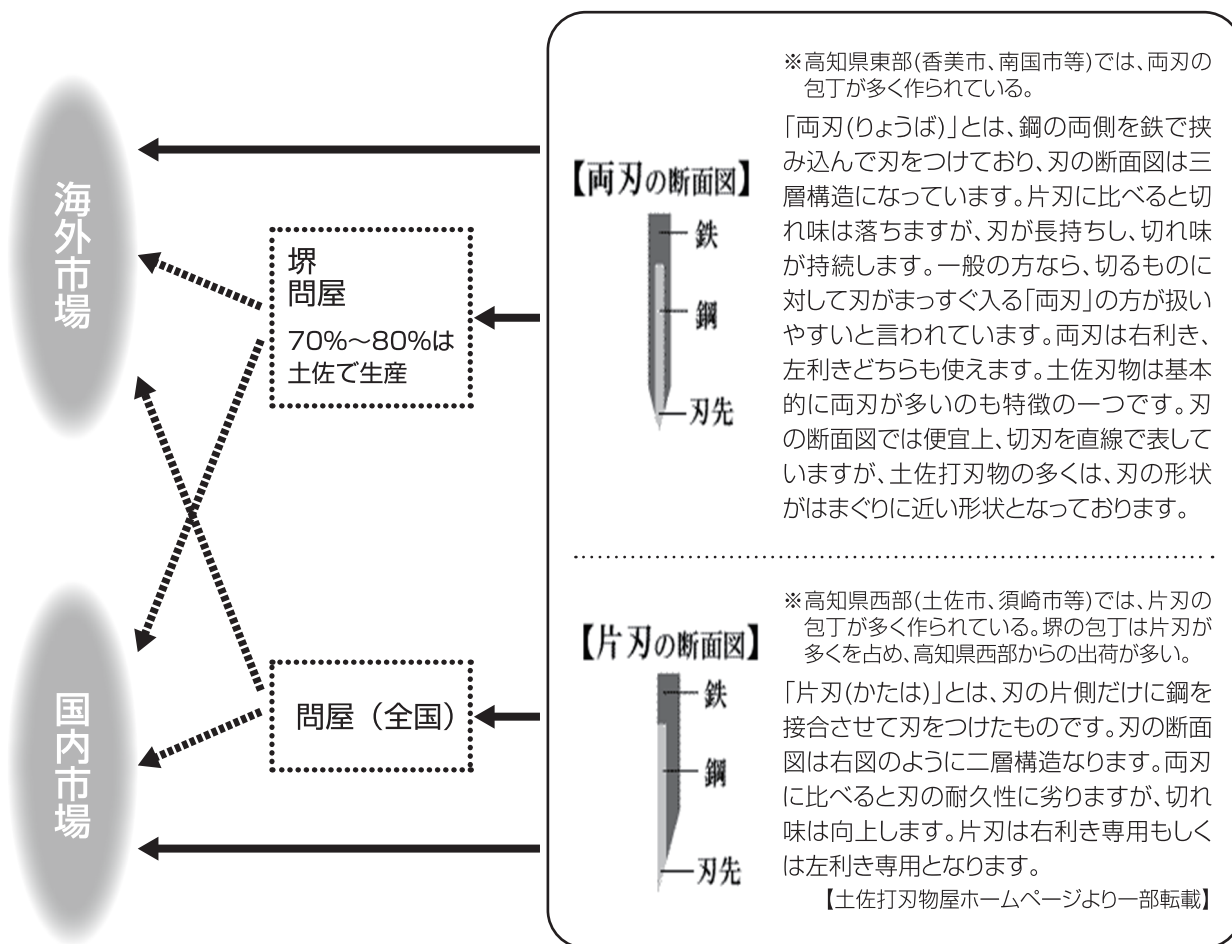
3 土佐打刃物の役割と位置付け

土佐の優位点、それはどの産地よりも鍛造工程において鍛冶職人のスキルが高いことである。現実的には堺市、越前市、三条市、三木市において若干の鍛冶職人や鍛冶工房は存在するが、関市においてはすでに鍛造できる職人は皆無である。つまり、ベルトハンマーを用いた伝統的鍛造技術を伝承、維持してゆける可能性を孕んだ産地は土佐においては他に考え難い。幸いにして高知では、香美市土佐山田町、南国市を中心とした3層構造のブレードを鍛造する両刃鍛冶が残っており、土佐市、須崎市には2層構造の片刃ブレードを主に生産する鍛冶職人、工房が多くある。

日本にしかない「黒打両刃菜切包丁」の生産は長らく福井県越前市の包丁鍛冶が東日本エリア需要分の多くを担い、残りの西日本全域需要分を土佐鍛冶が担っていた。しかし、今では越前鍛冶、三条鍛冶が激減してしまい、土佐鍛冶だのみとなっている。土佐鍛冶のその供給責任は益々重くなっている。

加えて、30年以上前から堺の片刃包丁の70～80%は土佐の鍛造生地できていると云われたほどに、堺と土佐西部(土佐市、須崎市)の鍛冶職人群のコラボ関係は深く、堺市はパブリシティーに優れ「和包丁なら堺」のイメージを確立しているものの、土佐の鍛冶職人が鍛造した刃体なしでは、立ち行かない。ここ数年さらに堺の鍛造職人は減り続けており、危機感をつのらせた堺の刃物問屋は鍛造生地確保のために土佐詣でを重ねている。

2017年に入っては、堺刃物業界は伝統産業「堺打刃物」の存続に危機感を覚え、堺市に依頼し、大阪府立大学、関西大学の教授2名・識者を中心に後継・承継問題打開策につき全日本的視野で模索を開始し、関係性の深い高知「土佐打刃物」の調査も複数回にわたり実行している。



■土佐打刃物の伝統的工芸品としての特性(特徴)

土佐打刃物の伝統的技術は「使い勝手を重視した様々な型を造る自由鍛造と鋼を割込む技法」で平成10年に伝統的工芸品の産地指定を受けた。自由鍛造とは、ハンマーを粗打ちに、鍛接に、そして整形にもハンマーひとつで様々な型を造る技術である。刃物は作業により、また使用される土地によってもその形態はさまざまで、特に山仕事に使う斧などの厚刃物といわれる刃物は、使い手の袖職人と造り手の鍛冶屋が直接に関わりをもって交流しており、一人一人の使い手ごとに合わせた形態の「もの造り」が行われてきた。これが、自由鍛造の始まりとされている。



4 土佐打刃物産地の特性と現状

- ①土佐打刃物は、包丁以外に鉋(なた)、斧(おの)、鳶(とび)、鋏(くわ)、鎌(かま)、鋸(のこぎり)といった製品があるが、山林業、農業関連での需要が減少し、その傾向は今後とも続くという、厳しい市場環境にある。そのような環境の中、世界的な包丁市場の拡大により、今後の需要拡大に期待が持てる市場環境となりつつある。一方で、今後の生産能力が大きく不足することが予想される。

〈高知県土佐刃物連合協同組合の組合員事例〉

- A社 自社ブランド 高級包丁の海外(ヨーロッパ)からの受注残が3か月となり、生産が追い付かない。
- B社 事業者は、60代であるが、ドイツからの高級包丁注文が2010年から増加し、2016年現在3か月の受注残を抱え、国内向けの注文も併せて、生産が追い付かない。
- その他5事業者(50代1人、60代3人、70代1人)もアメリカ、ヨーロッパからの包丁受注が増加し、国内向けと合わせて生産がひっ迫している状況にある。

〈堺市及び関連する須崎市鍛冶事業者の状況〉

- 須崎市の鍛冶屋がその多くを出荷している堺市の「堺打刃物」も生産においては「土佐打刃物」と同じような悩みを抱えている。
- 堺打刃物は多くの料理人が愛用する包丁で知られており、生産も分業化が進んでいて「鍛冶」と「研ぎ」に分かれている。堺打刃物は、それぞれの専門分野にて発展してきたため「土佐打刃物」のように一貫して刃物を作ることはない。そのため須崎市の鍛冶屋から半製品を仕入れ自社にて「研ぎ」の技術を加え「堺ブランド」で出荷している。
- その堺でも鍛接・鍛造をする、鍛冶職人が減少し2015年から堺市産業振興センターと堺刃物商工業協同組合が協力して「職人養成道場」を開き後継者の育成をはじめた。土佐打刃物においても後継者育成は大きな課題となっているが、土佐打刃物は一貫した生産体制であるのに対して、堺打刃物は分業制であるため鍛冶の職人がいなくなれば「研ぎ」の職人も職を失うこととなる。この事が土佐打刃物の中でも特に須崎市の鍛冶屋の生産を伸ばしている要因になっている。

- ②従業員4名以上の事業所は少なく、大半が1～3名の事業者であり、かつ高齢化が進んでいる(50歳以上71.4%)ため、新しく人を採用したとしても現在の生産に追われて育成する余裕がないという事業者が大半である。さらに、後継者のいない事業所が21事業所と全体の66.7%と高い水準にある。

2011年 高知県土佐刃物連合協同組合調査結果
従事者の年齢構成

20歳代	30-40歳代	50-60歳代	70歳以上	合計
2	46	108	12	168
71.4%				

2016年 高知県土佐刃物連合協同組合調査結果
(33事業所回答)
後継者の有無

後継者がいる	11	66.7%
後継者はいない	21	
その他	1	
合計	33	

- ③今後の後継者育成については、現状の2年間の受入れ研修制度(注1)では2事業者のみが受入れ可能、鍛冶屋の学校について、8事業所が講師としての引き受けが可能と、学校方式の将来の後継者育成に対して関心と期待が高い。ただし、講師の希望者も高齢化が進みつつあり、近い将来講師の担い手も不足する恐れがある。

※P.24 参照

2016年 高知県土佐刃物連合協同組合調査結果
(33事業所回答)
後継者(弟子入り含む)の受け入れについて
※2年間の研修制度

受け入れてもよい(既に受け入れている)	2
受け入れはできない	26
条件により受け入れてもよい	1

2016年 高知県土佐刃物連合協同組合調査結果
(33事業所回答)
鍛冶屋の学校講師について

講師を引受けることができる	8
講師を引受けることができない	16
その他	4
合計	28

(注1) P.26 高知県後継者育成支援制度参照



5 世界市場で実力に見合う生産能力、技術継承を行うための（仮称）「鍛冶屋の学校」 創設に向けて

5-1 世界包丁市場での土佐打刃物の潜在成長力

今後の需要の伸びを、年率8.05%とした場合、国内市場の2倍程度の輸出額となるのに10年、国内市場の3倍となるのに16年とかならない。

すし文化、和食文化の広がりをきっかけとして、ヨーロッパ、アメリカ、アジアでの「切れ味の良い」日本の包丁の需要拡大が始まったのは、わずか10年程度であり輸出量もわずか7,769百万円に過ぎない。

モスクワ、ホーチミン、ジャカルタ、バンコク、サンパウロ、ドバイの都市別のアンケート調査で、サンパウロ、ドバイを除く4都市で「好きな外国料理の1位」として「日本料理」が選ばれている。(2位はイタリア料理) なお4都市ではバンコク66.6%、ジャカルタ50.4%、ホーチミン37.8%、モスクワ35.4%であり、特にバンコクとジャカルタでは、「日本料理」の人气が突出している。

出典：ジェトロ「日本食品に対する海外消費者意識アンケート調査」(2014年3月)

日本包丁分野においては、「世界第三位の実力」と「優位性」を既に保有している。

日本独自の包丁生産技術を持つ産地の中で、土佐打刃物は、岐阜、三条・燕について、第三位(堺への半加工品の出荷量を含む)の生産能力、技術、熟練技能者を抱えている。

2009年度認定の「土佐の匠」であるM氏の黒打両刃鍛造包丁は最も早くから世界で認知され、今や、彼自身の全く知らない処、WEB上の空間(Knife Forum、Blade Forumサイトなど)でマニアックな評価や、素晴らしさにつき国境を越えユーザー同士が語り合い情報交換がなされている。特にM氏の鍛造ブレードに錆びないステンレス鋼とタング(中子)を組み合わせた洋包丁スタイルのBシリーズは傑作として語られることが多いが、現在多くの海外販売サイトでは「SOLD OUT」の表示が目立つ。一人鍛冶のため、生産量に限りがあるためである。(写真左下はBシリーズ牛刀モデル)



香美市土佐山田町、南国市エリアの包丁鍛冶が最も得意とする黒打包丁は、ブレード表面を黒染めしたものでなく、熱処理で生まれた自然な黒肌の酸化皮膜である。この黒の色合いも鍛冶職人により微妙に違い、それが魅力の一つでもある。早くから、この魅力に気づいたドイツのCHROMA社により、「黒打」は「KUROUCHI」として欧州全域で商標登録され、看板商品の一角として、着実に利益をもたらしている。同社の扱うKUROUCHIシリーズはすべて土佐山田で鍛造されたものである。(以下の同社KUROUCHIカタログ内の英文記述にてTOSAが紹介されている。写真右は本年2月Ambienteでの同社スタンド風景、土佐を象徴する坂本龍馬をモチーフに、伝統的なスタイルのままの黒打包丁でプロモーションされている。)

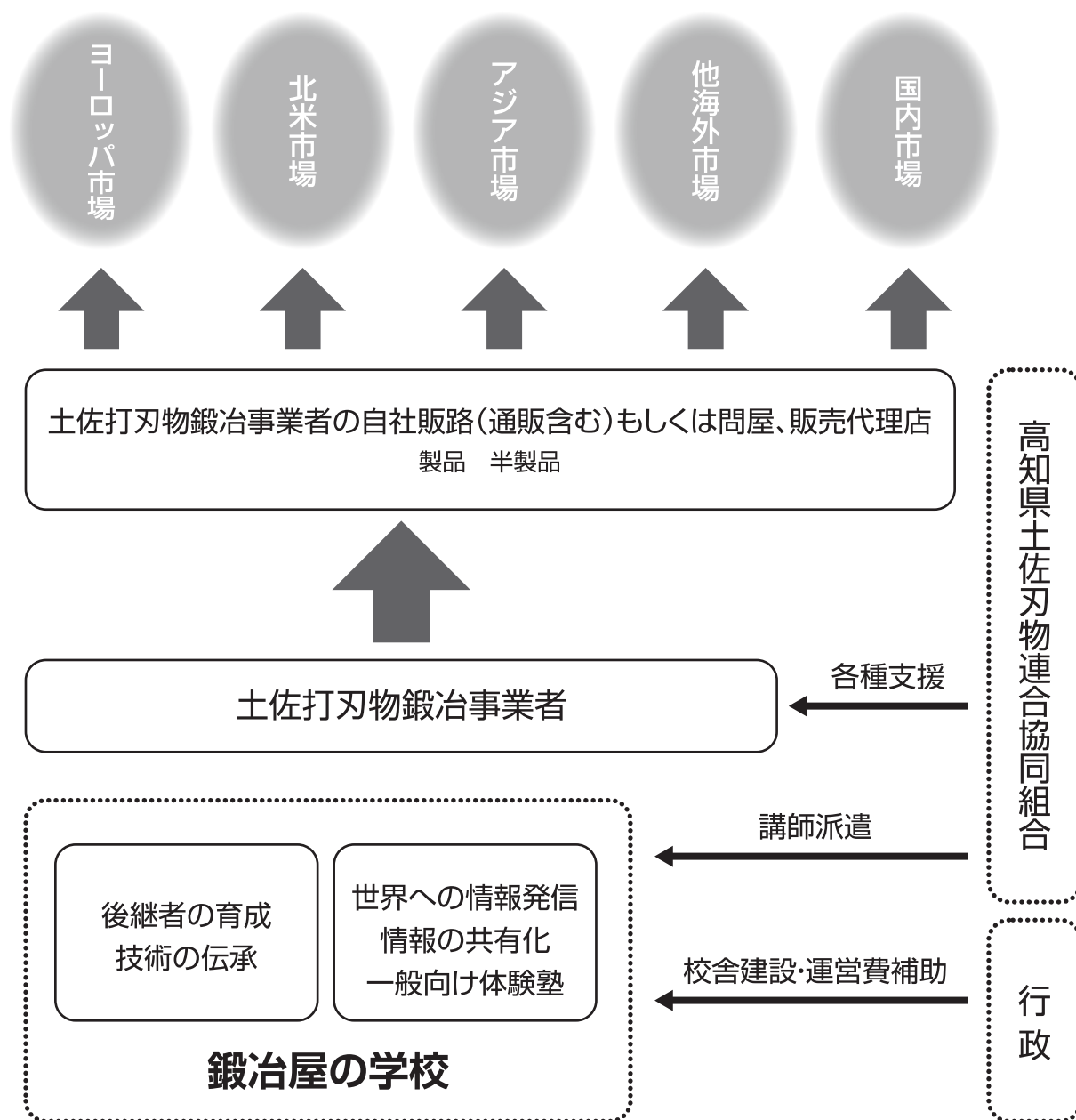




今すぐ必要なのは、今後10年以上拡大すると考えられる世界市場及び国内取引先へ需要に見合う「製品」を生産可能な体制構築と、これまでの生産技術を継承、発展させていくことである。

現状の販路構成でも、土佐打刃物産地の販売高は2～3倍程度になる可能性はあるが、さらに高付加価値製品の販売を想定した場合、海外への販売比率を高める必要がある。これは、生産品質の維持向上と海外市場に求められる完成品としての価値づくりも必要となる。

- 県内外を問わず、少人数でも今から技術者を育成しなければならない。
- 雇用するだけの企業体力、教育時間がある企業は少ないことから、雇用が発生しない教育機関としての運営を目指す必要がある。
- 最低限の投資資金、運営資金を目指すが、市、県、国からの助成が必要不可欠である。





5-2 後継者育成全体フロー

2年制鍛冶屋の学校の設立

- 協同組合による教育研修制度(学校)の設立、運営
- 入塾試験(面接、筆記、適性:色盲、体力) 受入は5名/年を上限とする。
- 1年次終了時、試験及び面接による生徒の意欲、能力、適正の判定により、2年過程への進級を決定

卒業後に、組合員企業から生産工程の一部（最初は仕上げ工程の「研ぎ」の依頼が多い）を請負えるだけの技術レベルでの卒業となる。



2年の課程を修了し、卒業

組合企業からの仕事を請負いながら、一人前の職人を目指す。

すべての卒業生の生活が成り立つように、組合から組合員企業の仕事を斡旋

仕事量は豊富にあり、技術レベルが高まるとともに、さらに難易度の高い工程等の仕事の依頼が多くなる

仕事場として、学校の使っていない時間に設備等を無料で貸し出し、初期投資のかからないスタートとなる(水道光熱費は自己負担)



その後のステップアップ

自ら工房を設立し、事業展開を図る。

製品を制作し、海外市場へ自分の製品を製造販売する。
学校、組合、公的機関からの支援

ブランド開発支援
(営業、商品開発)
海外展示会出展支援

組合企業への入社

採用要望企業への就職
一流の職人、後継者

鍛冶屋の学校 講師補佐

一般向け体験塾の企画

卒業生の支援

組合企業からの卒業生への仕事斡旋、調整

海外への情報発信



5-3 情報発信拠点(今後の国内外を対象とした土佐打刃物ブランドの開発試行等)」

土佐打刃物ブランドの確立には、性能・品質を国内のみならず、海外へも発信する必要がある。
そのため、

「鍛冶屋の学校」に土佐打刃物をアピールする場を併設する。
タケフナイフビレッジでは、工場見学・手造り鍛造ナイフ教室・販売を通じて打刃物の性能と品質について広報活動を行っている。

※参考写真はタケフナイフビレッジ

福井県越前市余川町 22-91





5-4 2年制教育研修カリキュラム案

1 年度		
4月開校	(9:00-17:00)	
4月	・ 鍛造道具の使い方(実習) ベルトハンマー、押切り、プレス、グラインダー等の使用方法	
	・ 安全教育、安全管理	
	・ 知識考え方の習得(座学) 刃物の種類、鋼の種類、歴史	
5-8月	・ 鍛接と刃物の形に打つことを練習(実習) 利器材を使って、一般包丁の製作実習	
	・ 技能検定2級金属熱処理の講座及び8月中旬に受験し、合格を目指す。	
9-12月	・ 利器材を使った、菜切り包丁の製作実習 12月に製作したものの試験、評価を行う。	
	・ 座学(週2回)	
1月-3月	・ 利器材を使った、出刃包丁の進級試験制作	
3月	・ 試験評価。講師、指導者の評価による進級判定 留年はなく、進級か退校となる。	
2 年度		
4-5月	・ 利器材を使った、柳刃の製作実習	
6-9月	・ 利器材を使わない舟行の製作実習 ※技能検定2級金属熱処理の合格	
10-12月	実務実習 組合員企業からの一部請負仕事の製作実習 正確さとスピードの習熟、重要性を身につける 仕上げ工程の研ぎ技術は必修とする	
10-2月	卒業制作実習 実際に販売する商品を製作する 商品の研究～アイデアの具体化、価格設定、試験販売の実施	
10-2月	・ 自身の成長計画の作成 組合員企業への入社、学校講師等の選択	
3月	・ 卒業試験及び卒業	
※生徒募集要項 毎年5名を上限とする。		
・ 土佐打刃物の伝統的技術を習得し、将来土佐打刃物の業界において、事業を行う目的があるもの。		
・ 学費 月2万円 研修用資材、材料費、水道光熱費含む		
・ 傷害保険への加入 生徒の自己負担		
・ 資格受験費用は生徒の自己負担とする。		
・ 交通費、住居費および生活費は生徒の自己負担とする。		
・ 2年制ではあるが、進級試験により、合格者のみが2年次へと進級できる。		
※講師体制		
講師	実習指導	4名/日(組合員企業から)
講師助手	座学指導	2名(専任)
	実習指導	
	生活指導	
事務局	研修受付 住居斡旋 経理事務	協同組合事務局メンバー委託



土佐打刀物後継者育成事業 講師予定者

氏 名	住 所	製造品目	備 考
上村 芳雄	土佐山田町	柄鎌・鉞	伝統工芸士
梶原 務	香北町	包丁	
橋村 竹男	南国市	斧	
明神 和夫	須崎市浦の内	包丁	伝統工芸士
岡田 俊章	須崎市桑田山	包丁	伝統工芸士
中越 慧	須崎市吾井ノ郷	包丁	伝統工芸士
山下 哲	土佐山田町	鎌	伝統工芸士
宗石 博孝	土佐山田町	鉞	伝統工芸士
岡林 勉	土佐山田町	鋏	伝統工芸士
山崎 龍太郎	土佐山田町	鎌	

研修中の研修生（高知県伝統的工芸品等後継者育成対策事業を活動）

※P.26 参照

研修生	出身地域	受入事業所	研修対象期間
藤本 亮太 (23才)	東京都東久留米市	笹岡鋏製作所 吾川郡いの町 毎月12万5千円支給	平成27年11月～平成29年10月 毎月15万円支給
小高 洋平 (28才)	石川県金沢市	明神刃物製作所 須崎市浦ノ内 毎月12万5千円支給	平成28年5月～平成30年4月 毎月15万円支給

研修希望者（組合への申し込み分 平成29年3月末現在）

氏 名	住 所	希望製造品目	研修対象期間
(女性)	福岡県	包丁・鋏	平成29年4月より研修予定
(男性)	千葉県	包丁・鎌	
//	南国市		
//	山梨県		
//	佐賀県	包丁	
//	愛媛県	包丁	平成29年4月より研修予定



「鍛冶屋の学校」 運営収支

研修生				1年度	2年度	3年度	4年度	5年度
			合 計	5	10	10	10	10
			1年次	5	5	5	5	5
			2年次		5	5	5	5
				3	4	5	5	5
専任講師			専任で、全期間を指導	2	2	3	3	3
1	AA	205日/年		1	1	1	1	1
2	BB	205日/年		1	1	1	1	1
3	CC	205日/年				1	1	1
4	DD	205日/年						
講師助手			組合員熟練者、卒業生 個別課程を時間で担当	1	2	2	2	2
1	OO	延べ人数 205人/年		1	1	1	1	1
2	PP	延べ人数 205人/年			1	1	1	1

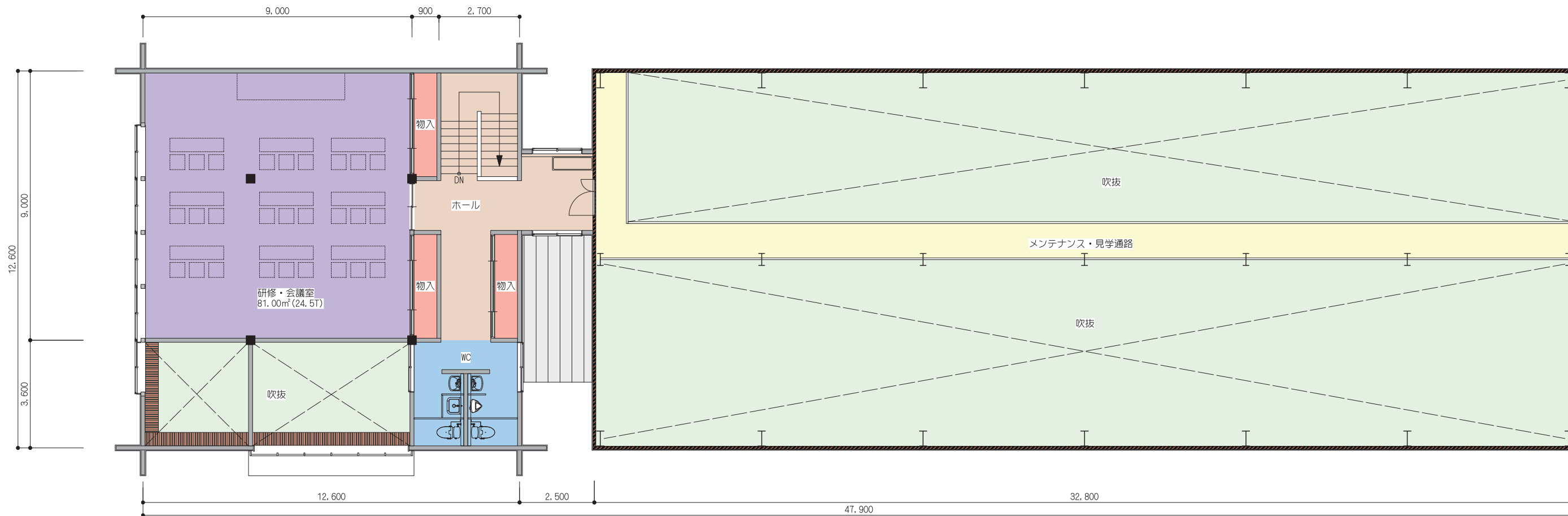
(単位 千円)

			1年度	2年度	3年度	4年度	5年度
売上高	組合負担金	毎年5名、1名月額2万円	1,200	2,400	2,400	2,400	2,400
売上原価	研修講師謝金	1名×205日×15000円/日	6,150	4,613	7,688	7,688	7,688
	研修講師助手謝金	1名×205日×7500円/日	3,075	6,150	6,150	6,150	6,150
	研修講師旅費	10000円/人・月	360	420	540	540	540
	研修教材費						
	テキスト代	20000円/年・人	100	200	200	200	200
	工具用具消耗品	30000円/年・人	150	300	300	300	300
	試験用製作品原材料	30000円/年・人	150	300	300	300	300
	研修用原材料	20000円/人・月	1,200	2,400	2,400	2,400	2,400
	受講生傷害保険費用	4500円/1人・年	23	45	45	45	45
	小計		11,208	14,428	17,623	17,623	17,623
売上総利益			▲10,008	▲12,028	▲15,223	▲15,223	▲15,223
販売管理費	募集案内費	募集対応、経理、通信費、交通費等々 案内資料、ポスター等	60	60	60	60	60
	水道光熱費	1年目5万円/月 2年目以降10万円/月	600	1,200	1,200	1,200	1,200
	雑費	20000円/月	240	240	240	240	240
	小計		900	1,440	1,440	1,440	1,440
営業利益			▲10,908	▲13,468	▲16,663	▲16,663	▲16,663
営業外収入			0	0	0	0	0
伝統工芸品産業支援補助金			0	0	0	0	0
	研修講師謝金	2/3	4,100	3,075	5,125	5,125	5,125
	研修講師助手謝金	2/3	2,050	4,100	4,100	4,100	4,100
	研修講師旅費	2/3	240	280	360	360	360
	研修教材費						
	テキスト代	2/3	67	133	133	133	133
	工具用具消耗品	2/3	100	200	200	200	200
	試験用製作品原材料	2/3	100	200	200	200	200
	研修用原材料	2/3	800	1,600	1,600	1,600	1,600
	受講生傷害保険費用	2/3	15	30	30	30	30
	小計		7,472	9,618	11,748	11,748	11,748
県・市補助金							
	仮		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	小計		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	補助金計		12,472	14,618	16,748	16,748	16,748
経常利益			1,564	1,151	86	86	86

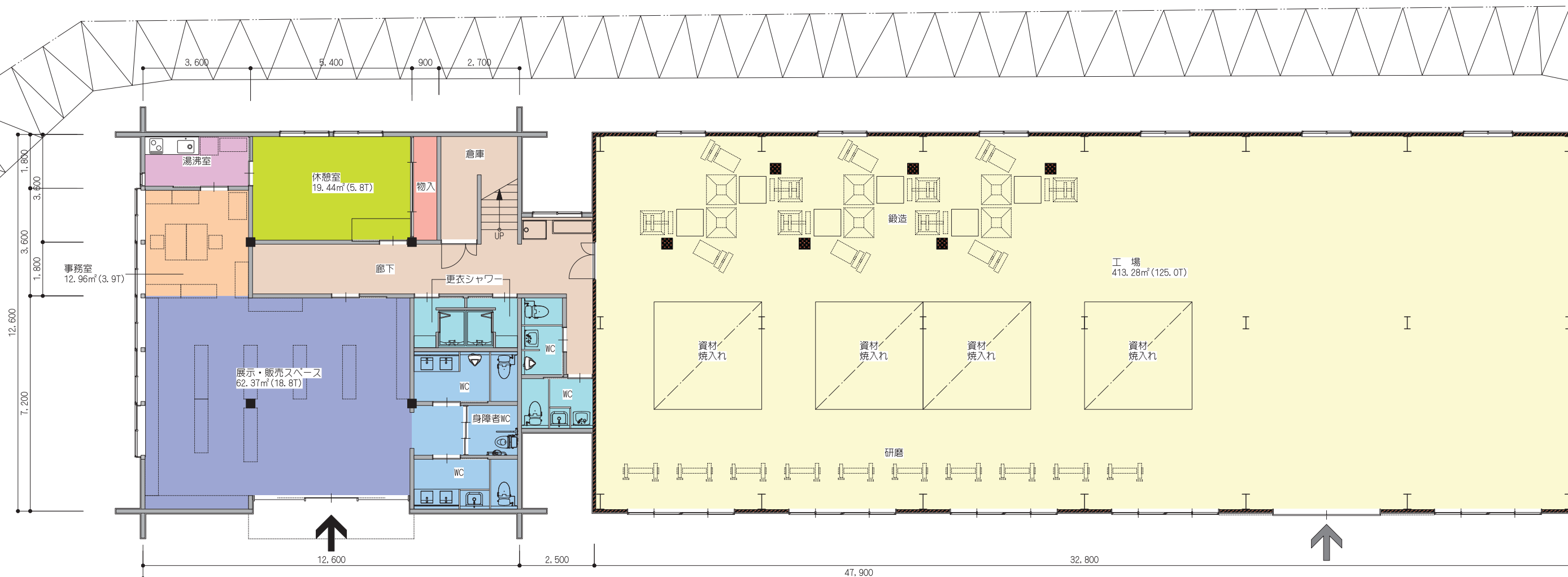


(仮称) 鍛冶屋の学校 建設費概算

☐ 施 設				
構造・規模				
管理棟	木 造 2階建て		307.44m ²	
工場棟	鉄骨造 2階建て		456.61m ²	
合計			764.05m ²	
工事費概算				
共通費		1 式	13,200,000	(A)
管理棟	建築主体工事	1 式	50,800,000	
	電気設備工事	1 式	7,400,000	
	機械設備工事	1 式	13,900,000	
	管理棟 計		72,100,000	(B)
工場棟	建築主体工事	1 式	47,200,000	
	電気設備工事	1 式	6,800,000	
	機械設備工事	1 式	3,100,000	
	工場棟 計		57,100,000	(C)
外構工事		1 式	3,000,000	(D)
合 計	(A)+(B)+(C)+(D)		145,400,000	
消費税		8%	11,632,000	
工事費合計			157,032,000	
☐ 設計監理				
設計監理報酬				
基本設計		1 式	727,000	
実施設計		1 式	4,362,000	
工事監理		1 式	2,181,000	
合 計			7,270,000	
消費税		8%	581,600	
設計監理報酬合計			7,851,600	
☒ 事業費 総合計 (※但し工場の鍛造設備は含まない)				
		1 式	164,883,600	



2階平面図



1階平面図

A3に縮小



クラフト設計 CRAFT DESIGN

1級建築士 大臣登録 第180992号 尾田 安広

1級建築士事務所 高知県知事登録 第884号

(仮称) 鍛冶屋の学校 基本計画

PROJECT-NO. A-000

DATE 01 / 2017

平面図

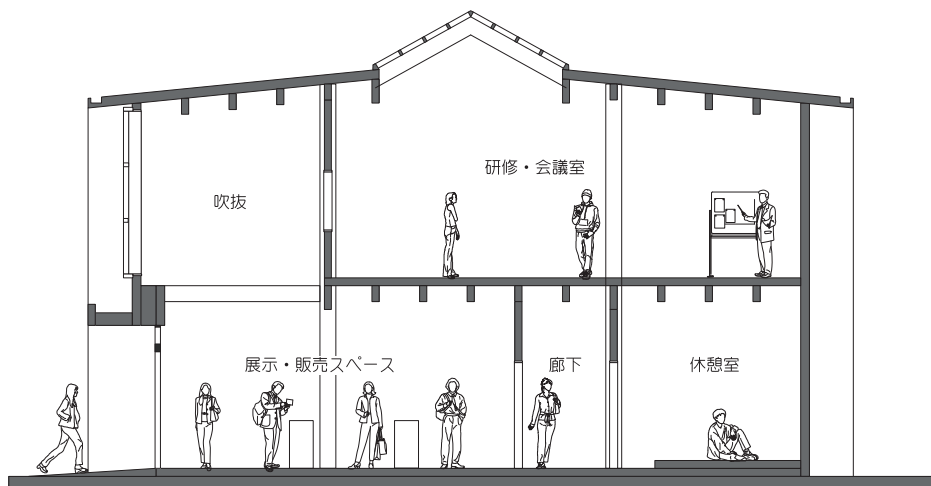
SCALE 1 : 100

計画

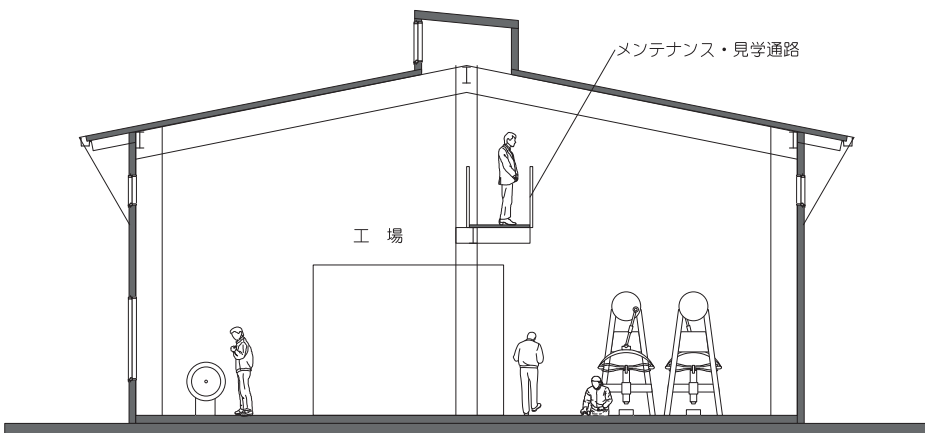
05-01



正面 立面図



管理棟 断面図



工場棟 断面図



クラフト設計 CRAFTDESIGN

1 級建築士 大臣登録 第 180992 号 尾田 安 広

1 級建築士事務所 高知県知事登録 第 8 8 4 号

（仮称）鍛冶屋の学校 基本計画

PROJECT-NO. A-000

DATE 01 / 2017

立面図 断面図

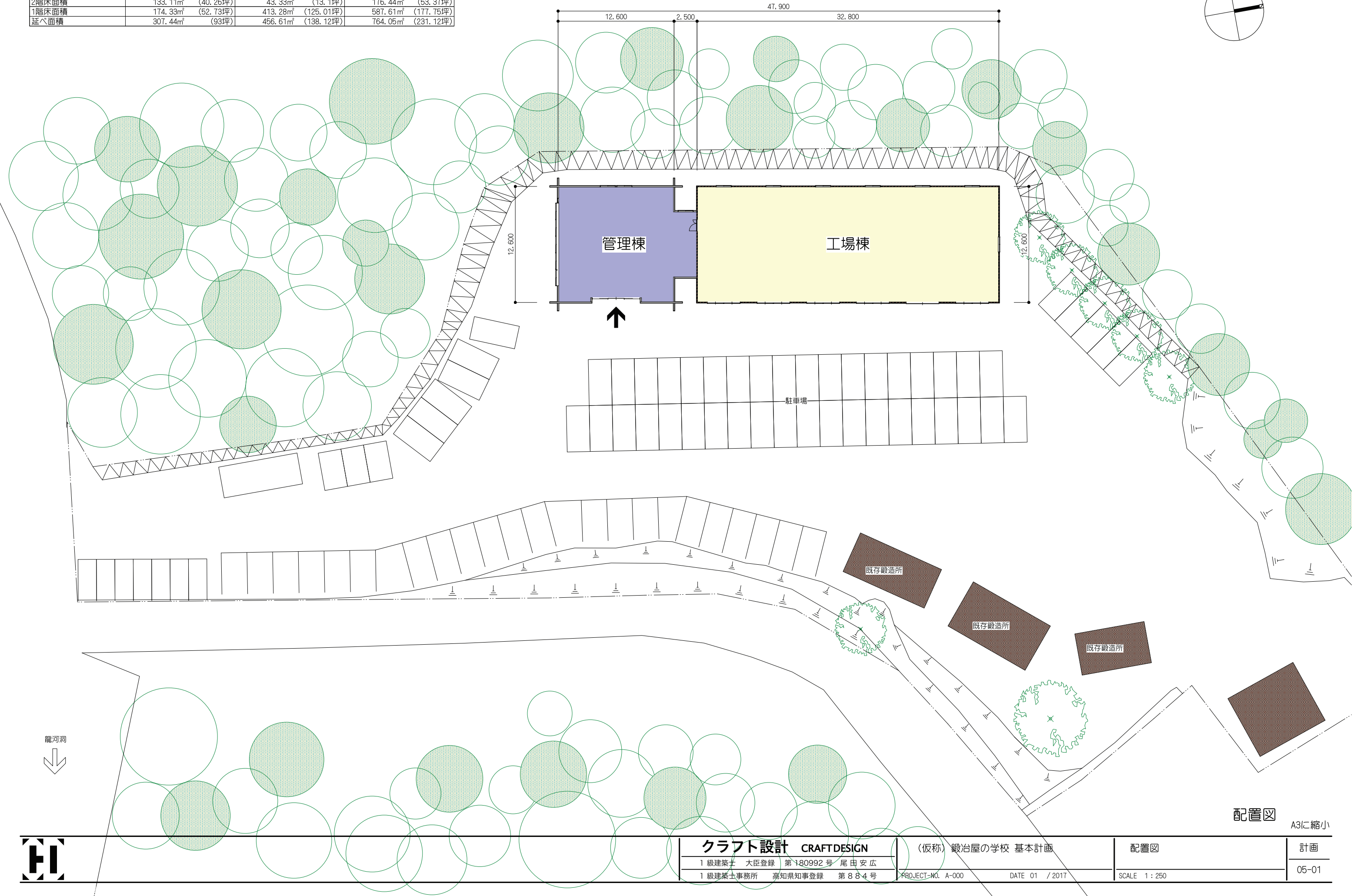
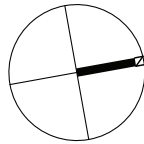
SCALE 1 : 100

A3に縮小

計画

05-01

面積表	㎡ (坪)	管理棟	工場棟	合 計
2階床面積		133.11㎡ (40.26坪)	43.33㎡ (13.1坪)	176.44㎡ (53.37坪)
1階床面積		174.33㎡ (52.73坪)	413.28㎡ (125.01坪)	587.61㎡ (177.75坪)
延べ面積		307.44㎡ (93坪)	456.61㎡ (138.12坪)	764.05㎡ (231.12坪)





平成28年11月吉日

鍛造業者各位

高知県土佐刃物連合協同組合
理事長 西山 武

鍛造業者の実態調査（アンケート）のお願い

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、土佐打刃物の製造・販売にご尽力を頂きありがとうございます。

さて、当組合が国の伝統工芸品産地指定を受けて20年が経とうとしています。

当時は、高知県下で約160の鍛造業者が切磋琢磨して「土佐打刃物」を製造していましたが、時代の流れとともに年々減少し現在では相当数の鍛冶屋さんが廃業されていると思います。

また、それに伴って関連産業の柄や鞘を作る木工業者の廃業やベルトハンマーの製造・修理をしていた坂本鉄工所も「鍛造用機械」からの撤退を示唆しています。

加えて、現在、材料の調達にも何かしらの制約（数量の下限）が出始め鍛造業界を取り巻く環境は厳しくなる一方です。

これからも製造を続ける若い世代の生産者や後継者がいる事業所にとっては大きな問題となりつつありますが、一事業所で解決できる問題でもありません。

また、当組合では減少する鍛造業者に危機感を覚えるとともに、弟子入りを希望する方々に応えるため、加えて伝統技術の継承を図るため平成27年度から高知県及び関係する市町村の協力を得て後継者育成事業を行い2名の研修生が育っています。しかし、この後継者育成事業も一事業所では限界があり、組合としては学校方式で「後継者育成事業」が出来るように施設の建設等を要望するように検討しています。

つきましては、一度皆様方の現状をお聞きしたくアンケートのご協力をお願いする次第です。

※アンケートにつきましては恐れ入りますが11月末日までにご返送して頂ければ幸いです

問い合わせ先

〒782-0034

高知県香美市土佐山田町宝町 2-2-27

香美市商工会内

高知県土佐刃物連合協同組合 事務局：門田 貴司

電話0887-53-4111 FAX0887-53-4113

e-mail:kadota@kochi-shokokai.jp



事業所名			
代表者名		年齢	
住 所	〒 ー		
連 絡 先	電話	F A X	

※②・③の方は「9. 鍛冶屋の学校について」のアンケートにお進み下さい。

①数年来同じ状況で推移している ②年々減少している ③増えている

①従来と変わらず経営できると思う ②年々厳しくなると思う ③良くなると思う

① 後継者がいる（身内・他人）（名）

② 後継者はいない

③ その他 ()

※①の方は後継者が身内か他人かに○をつけて下さい、人数もご記入下さい

(裏面へ)

① 包丁 ② 鋏 ③ 鎌 ④ 鉋（ナイフ含む）

⑤ 柄鎌 ⑥ 斧 ⑦ 鳶 ⑧ 鋸

⑨ その他（ ）

① 数量の制限なく仕入れることが出来ている

② 数量の制限を受けている

種類に○をつけ細かい素材までご記入下さい。例えば鋼（青紙1号）

の仕入れについて、1回の仕入れは_____kg以上 ※kg数を記入して下さい

① 従来から変わらない素材の材料を使うことが出来ている

② 従来からの材料が無くなり、違う素材の材料で対応している

③その他

①付属部品等は従来から変わりなく仕入れが来ている

(柄：)
(鞆：)



②仕入れに困ることが多く苦慮している

③仕入れは行っていない

7. 香美市土佐山田町にて鍛造用機械等の製造販売及び修理も行っている坂本鉄工所が鍛造用機械から撤退した場合の機械の修理等について
(ベルトハンマー・グラインダー・炉・焼入れ機・研磨機・プレス機等)

①困ることはない

②壊れた場合は困ると思う

※①で困らない答えた理由を教えてください

()

8. 土佐打刃物のブランド化について

組合では、伝統的工芸品産地指定や地域ブランドの取得等、産地の保護を図るとともにロゴマークを作るなどして「ブランド化」の推進にも力を入れています。進んでいないのが現状です。そこで、生産者の皆様方にとって「ブランド化」は必要ですか

①必要ない

②必要だ

③どちらでもない

※①で必要ない答えた理由を教えてください

() (裏面へ)



9. 鍛冶屋の学校について

組合では、後継者育成のために鍛冶屋の学校を作る必要があると考え、現在検討中です。もし、学校が出来た場合、講師を依頼すれば引き受けて頂けるでしょうか
(金額については明確ではありませんが講師謝金・交通費についてお支払できるとして
お答え下さい)

①引き受けることが出来る

②引き受けることは出来ない

③その他

10. 後継者(弟子入りを含む)の受け入れについて

現在、組合では高知県・関係市町村の協力を受けて後継者育成を行っています。
(研修制度：研修生には月15万円・研修生受け入れ事業所には月12万5千円
が2年間支給されます。詳しくお聞きになりたい方は事務局までご連絡下さい)
つきましては、今後、後継者(弟子入りを含む)の受け入れについてお聞きします。

①後継者(弟子入りを含む)を受け入れても良い

②後継者(弟子入りを含む)の受け入れは出来ない

③条件によって受け入れても良い

※条件を教えてください

[]



1 1. 組合への加入について

組合では、製造機械や原材料の仕入れ及び後継者育成について今後とも組合員全員で
取組み、鍛造の火を消すことがないように努めていく所存です。つきましては、是非
ご一緒に活動をして頂きたいと思いますが、組合への加入についてはいかがでしょ
うか。

①組合への加入はしない

②組合へ加入しても良い

③条件によっては加入しても良い

1 2. その他（どのようなことでもお書き下さい）

[]

【恐れ入りますが、平成 28 年 11 月末日までにご記入のうえ返送願います】

《ご協力ありがとうございました》



【アンケートの回答結果】（平成28年12月末日）

68事業所へアンケートを送付

39通（57％）の返信 36事業所（53％）が有効回答

1. 現在の状況について

- ①現在も製造している 【30事業所】 ②廃業予定（ ）年頃 【6事業所】 ③廃業した（平成 ）年 【3事業所】

1. （2）売上について ※回答なし【1事業所】

- ①数年来同じ状況で推移している 【13事業所】 ②年々減少している 【17事業所】 ③増えている 【5事業所】

1. （3）今後の経営について ※回答なし【3事業所】

- ①従来と変わらず経営できると思う 【7事業所】 ②年々厳しくなると思う 【24事業所】 ③良くなると思う 【2事業所】

2. 後継者について

- ①後継者がいる（身内・他人）（ ）名 【12事業所】
②後継者はいない 【23事業所】
③その他（ ） 【1事業所】

3. 製造品目を教えて下さい（該当品目を選び○をつけて下さい）

- ①包丁 ②鋏 ③鎌 ④鉋（ナイフ含む）
⑤柄鎌 ⑥斧 ⑦鳶 ⑧鋸
⑨その他（ ）

4. 材料の仕入れについて ※回答なし【5事業所】

- ①数量の制限なく仕入れることが出来ている 【16事業所】
②数量の制限を受けている 【15事業所】
種類に○をつけ細かい素材までご記入下さい。例えば鋼（青紙1号）
【鉄（ ）・鋼（ ）・利器材（ ）・その他（ ）】
の仕入れについて、1回の仕入れは k g 以上 ※k g 数を記入して下さい
- | | |
|-----------------|---------------|
| ・利器材100～200kg以上 | ・鉄2000kg以上 |
| ・鋼（安来鋼）500kg以上 | |
| ・利器材（青1）100kg | ・利器材ロール 300kg |

5. 材料について ※回答なし【3事業所】

- ①従来から変わらない素材の材料を使うことが出来ている 【28事業所】
②従来からの材料が無くなり、違う素材の材料で対応している 【3事業所】
③その他 【2事業所】

6. 付属部品（柄・鞘）等について ※回答なし【14事業所】

- ①付属部品等は従来から変わりなく仕入れが出来ている 【11事業所】
②仕入れに困ることが多く苦慮している 【1事業所】



③仕入れは行っていない

【10事業所】

7. 香美市土佐山田町にて鍛造用機械等の製造販売及び修理も行っている坂本鉄工所が鍛造用機械から撤退した場合の機械の修理等について

(ベルトハンマー・グラインダー・炉・焼入れ機・研磨機・プレス機等)

①困ることはない

②壊れた場合は困ると思う

【36事業所】

8. 土佐打刃物のブランド化について ※回答なし **【2事業所】**

組合では、伝統的工芸品産地指定や地域ブランドの取得等、産地の保護を図るとともにロゴマークを作るなどして「ブランド化」の推進にも力を入れています。進んでいないのが現状です。そこで、生産者の皆様方にとって「ブランド化」は必要ですか

①必要ない

②必要だ

③どちらでもない

【1事業所】

【20事業所】

【13事業所】

- ・生産者・問屋それぞれのブランドがありどうなのか
- ・自主ブランドが売上の1／5位、注文ブランドが多い
- ・ロゴや宣伝等表の部分より、鍛冶屋・問屋・小売店すべてが一体となった品質の向上を目指す取り組みが必要その上でのブランディングじゃないと意味はないと思います

9. 鍛冶屋の学校について ※回答なし **【6事業所】**

組合では、後継者育成のために鍛冶屋の学校を作る必要があると考え、現在検討中です。もし、学校が出来た場合、講師を依頼すれば引き受けて頂けるでしょうか

(金額については明確ではありませんが講師謝金・交通費についてお支払できるとしてお答え下さい)

①引き受けることが出来る

【8事業所】

- ・技術を教えるのは難しいですが、直売やネット通販等お客様と直接つながるうえでの注意点や心構え等はお伝えする事が出来ると思います。

②引き受けることは出来ない

【18事業所】

③その他

【4事業所】

- ・補助制度について あまり行政の縛りが多いとどうか。研修生が研修リタイアした場合の返還があるのは可哀想。
研修の到達点をどうみるのか → 市場で売れる商品は出来れば素材は利器材でもOKなのか？
- ・鎌づくりの後継者の必要性は？
- ・現時点では議員の片手間で指導はできないと思うから、高校方式で講師の一人として参加はしてみたい。
- ・現状、工場のハンマーは余っているので成長した人は使用してもらうことは可能

10. 後継者(弟子入りを含む)の受け入れについて ※回答なし **【4事業所】**

現在、組合では高知県・関係市町村の協力を受けて後継者育成を行っています。(研修制度：研修生には月15万円・研修生受け入れ事業所には月12万5千円が2年間支給されます。詳しくお聞きになりたい方は事務局までご連絡下さい) つきましては、今後、後継者(弟子入りを含む)の受け入れについてお聞きします。

①後継者(弟子入りを含む)を受け入れても良い

【4事業所】 現在受入中 2事業所

②後継者(弟子入りを含む)の受け入れは出来ない

【26事業所】

- ・この仕事をしているが、判断することは大変な事だと思います。2年で出来る事になるかは、厳しいかと。



③条件によって受け入れても良い

【2事業所】

- ・プレス鎌製造に関して将来的に受入れを考える余地がある
- ・補助制度について

あまり行政の縛りが多いとどうか。研修生が研修をリタイヤした場合の返還があるのは可哀想。
研修の到達点をどう見るか→市場で売れる商品が出来れば素材は利器材でもOKなのか

1 1. 組合への加入について ※回答なし【1事業所】

組合では、製造機械や原材料の仕入れ及び後継者育成について今後とも組合員全員で取組み、鍛造の火を消すことがないよう努めていく所存です。つきましては、是非一緒に活動をして頂きたいと思いますが、組合への加入についてはいかがでしょうか。

①組合への加入はしない

【8事業所】

②組合へ加入しても良い

【1事業所】

③条件によっては加入しても良い

【3事業所】

※組合員【23事業所】

1 2. その他（どのようなことでもお書き下さい）

・関連産業(鉄工所・木工業)の後継者育成事業もなんとかしてほしい

・品質向上とともに買う側（問屋・小売店）の買い取り価格の単価アップが必要です

「高く買うので、より良い物を作れ」ぐらいの気持ちで仕入れて高く売る努力。

鍛冶屋は逆に「より良い物を作ったので、高く買ってくれ」この両方が互いに刺激し合えば産地としてのブランドは守られるとおもいます。

今までは「より安く・早く・大量に」この意識を業界全体で変えないと無理。

鍛冶屋は作り手がいなくなれば困りませんか？

大きな問屋さんがしっかりと手を組めば新しい職人を育てられると思います。

・官民一体でもっと鍛造業者の地位・生活の実態を考えてもらいたい。今のままでは将来を危ぶまれる。
例えば鍛冶屋をもっと大事にする心が無いと後継者も育ちににくい

・1年を通じて売上の波がありすぎる1年の予定が立たない

・木工・研磨についても講師依頼があれば大きく変わるかもしれません。化学的な基本知識の講師（年1回程度）も必要となってきました。（顧客が詳しくなっているため）

・現状では日立から適材規格の安来鋼が材料業者に納入されにくくなり、適材の安定供給が年々難しくなっていると聞いています。利器材業者によっては、適材がない場合は、切断し幅を調整して規格のものを作っているのが現状です。それでも対応できない場合は材料単価の高騰に繋がりがねず、それにより日本の最高級刃物鋼安来鋼が使用できなくなる危険性があり、土佐打刃物の質の低下を招くことになります。

そうならない為には、今後も最低限、現状の規格を維持できる様、土佐刃物連合協同組合としても働きかけをして頂きたい。



伝統的産業に対する後継者育成について ～伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業～

事業の背景・目的

高知県の地理的条件や歴史的背景から発展してきた手すき和紙等伝統的産業は、職人の高齢化や後継者不足により、産業の担い手不足に悩んでいる。この状況を打開するため、H26年度からは後継者育成の取組みを始め、H27年度からは国内外での販路開拓を強化。

伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業

人材の発掘・育成

I. 伝統的産業に興味のある人材の発掘・確保

発掘

II. 伝統的産業を支える担い手の育成

育成

～伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業費補助金～

(1) 短期研修事業

- 短期体験研修の開催支援
- ・伝統的工芸品や伝統的特産品の製造へ従事することを検討している方を対象にした短期体験研修の開催支援

(2) 研修環境整備事業

- ・研修場所の整備費、研修用設備の購入又はリース料・修繕費

(3) 研修者受入事業

- ・伝統的工芸品や伝統的特産品の技能や技術を修得するために実施する長期研修への支援
- ①研修者の滞在経費や教材費等への支援
- ②指導者確保への支援

【補助事業者】 市町村(間接補助)

【補助対象者】 伝統的工芸品・伝統的特産品の指定を受けた協同組合又は事業者(土佐備長炭は除く)

【補助内容】

- (1)短期研修 :①PRや短期研修の開催に必要な経費
- (2)研修環境整備 :①研修環境の整備に関する経費
- (3)研修者受入 :①研修時滞在費等 ②研修指導者への謝金

【補助率(上限額)】

- (1)短期研修 :①県2/3 市町村1/3
- (2)研修環境整備 :①県2/3 市町村1/3
1事業者30万円
- (3)研修者受入 :①県2/3 (10万円/月)、市町村1/3 (5万円/月)
②県 定額 (5万円/月)+県2/3(5万円/月)
市町村1/3 (2.5万円/月)



地域に根差した伝統的産業を持続可能なものとして未来へつなぐ

認定品

【伝統的工芸品:2品目(国指定)】

【協同組合】

- ・土佐打刃物(香美市ほか)
- ・土佐和紙(いの町・土佐市ほか)

【伝統的特産品:11品目(県指定)】 * ()は主な産地

【協同組合】

- 土佐硯(三原村)、宝石珊瑚(高知市・宿毛市ほか)、土佐備長炭(室戸市・東洋町)
- 【事業者】 安芸國鬼瓦(安芸市)、内原野焼(安芸市)、尾戸焼、能茶山焼(高知市)、土佐古代塗(高知市)、土佐珐(香南市)、虎斑竹細工(須崎市)、フラフ・のぼり(香美市、香南市)、まんじゅう笠(芸西村)

依光晃一郎県政調査報告書バックナンバー

- 平成28年 ○幕末維新博に向けた観光振興における
開成館の歴史的的重要性について
- 平成27年 ○香美市における学生(団体)の活動実績・実態調査
○加工食品製造業における物流実態調査
- 平成26年 ○香美市集落調査
○香美市における小水力発電可能性調査
- 平成25年 ○香美市物部町神池地区地域活動調査
○高知県大学生の地域活動調査
○移住ニーズアンケート調査
- 平成24年 ○楽しく防災をめざした防災拠点づくりに関するアンケート
- 平成23年 ○香美市人口の推移

依光晃一郎後援会HPよりダウンロードできます。
<http://yorimitsu.gr.jp/hokoku/chosa.html>
複写・複製は可能です。積極的にご利用下さい

依光晃一郎後援会

〒782-0051 香美市土佐山田町楠目1014-5
電話：0887-52-9222 FAX：0887-53-2074
ホームページ：<http://yorimitsu.gr.jp/>
メール：info@yorimitsu.gr.jp